

第52回総合特別区域評価・調査検討会 議事要旨

日 時：令和3年2月12日（金）13:00～15:00

場 所：永田町合同庁舎 7階特別会議室（オンライン開催）

出席者：座長 安藤 光義 東京大学大学院農学生命科学研究科教授

秋山 弘子 東京大学名誉教授

下田 吉之 大阪大学大学院工学研究科環境・エネルギー工学専攻教授

武田 公子 金沢大学経済学経営学系教授

竹林 幹雄 神戸大学大学院海事科学研究科教授

玉沖 仁美 株式会社紡代表取締役

土屋 了介 公益財団法人ときわ会常盤病院顧問

藤田 壮 東京大学大学院工学系研究科教授

安島 博幸 跡見学園女子大学観光コミュニティ学部教授

事務局： 眞鍋 純 内閣府地方創生推進事務局長

長谷川 周夫 内閣府地方創生推進事務局審議官

日向 弘基 内閣府地方創生推進事務局参事官

佐々木 淳一 内閣府地方創生推進事務局参事官補佐

<ふじのくに先端医療総合特区に係る指定区域拡大等について>

○事務局より、資料（配布資料1、2、3）に基づき、ふじのくに先端医療総合特区に係る山梨県内の市町区域の新規指定に伴う同特区の指定区域拡大及び目標時期到来に伴い総合特区計画の認定を要する同特区の新計画案について説明が行われた。また、事務局より、同特区の地域活性化方針の変更案について報告がなされた。

○事務局との質疑応答及び委員間での意見交換を行い、指定区域拡大及び同特区の新計画案について本検討会として了解された。

<評価手続の簡素化について>

○事務局より、配布資料3に基づき、評価手続の簡素化案について、定量的な評価になじまない数値目標等の設定及び定性的評価の取扱いに係る見直し案を含め説明が行われた。

○事務局との質疑応答及び委員間での意見交換を行い、事務局案により評価手続の簡素化を進めることについて本検討会として了解された。

<総合特別区域基本方針の一部変更について>

○事務局より、資料4に基づき、総合特別区域基本方針の一部変更について報告がなされ

た。

○なお、委員より、基本方針に記載する社会経済情勢の変化を踏まえた新たな取組の視点について、この3か月ぐらい非常に重要な視点になってきたカーボンニュートラルも今後の総合特区における取組を検討する上で重要な視点であるとのコメントがあった。

<現地調査の実施状況について>

○事務局より、資料6に基づき報告し、委員間での意見交換が行われた。

○なお、現地調査に参加した委員等からの主な補足コメントは以下のとおり。

- ・京都市地域活性化総合特区について、新型コロナウイルス感染症の影響で観光客が減少。日本食文化の発信に加え、例えば地域の技術の活用といった観光に付随した魅力を発信するなどアフターコロナを見据えた今まで以上の情報発信が必要。
- ・ふじのくに先端医療総合特区の取組みは、他の特区でも参考になると思うので、このノウハウを伝えるような仕組みがあるといい。
- ・アジアNo.1航空宇宙産業クラスター形成特区について、自分たちの強みをよく理解した上で運営できている。ビジネスシーズを見つける努力に加え、その着眼点がすばらしかった。強みとなる技術を通じた各企業の強固なつながりが形成されている。

以上